

2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会の開催について

平成26年12月9日

文化庁長官決定

1 趣旨

「日本の文化力」は、世界に誇る我が国の最大の資産であり、この資産を維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外への発信を、更に強化していく必要がある。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、スポーツのみならず、文化の力で世界の人々を魅了し、文化プログラムを日本全国津々浦々で行うことを目指している。そして、2020年を契機として、文化を通じた世界の人々の往来、交流を日本国中に生み出し、2030年頃には、「文化芸術立国」になることを目標としている。

こうした目標の実現を目指し、2020年に向けた文化イベント等の在り方を検討するため、文化庁長官の下に「2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会」を開催する。

2 検討事項

- (1) 2020年に向けた文化イベント等の全国展開について
- (2) その他

3 方法

- (1) 本検討会は、別紙に掲げる委員をもって構成する。
- (2) 必要に応じて、委員以外の協力を得ることができる。

4 その他

本件に関する庶務は、文化庁内各課及び参事官の協力を得つつ、長官官房政策課において行う。

2020 年に向けた文化イベント等の在り方検討会委員

(平成 27 年 2 月 4 日現在)

池坊 由紀	華道家元池坊次期家元
漆 紫穂子	品川女子学院校長
大西 麻貴	建築家
金森 穰	演出振付家, 舞踊家, りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督
鎌田 由美子	カルビー株式会社 上級執行役員
小山 薫堂	放送作家, 脚本家
佐藤 卓	グラフィックデザイナー
紫舟	書道家
セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役, NPO法人桶仕込み保存会代表理事
関口 光太郎	造形作家, 特別支援学校教員
デービッド・アキンソン	小西美術工藝社代表取締役社長
名和 晃平	彫刻家, 京都造形芸術大学准教授, SANDWICHディレクター
蜷川 実花	写真家, 映画監督
野村 萬斎	狂言師, 世田谷パブリックシアター芸術監督
藤沢 久美	シンクタンク・ソフィアバンク代表
増田 セバスチャン	アートディレクター
皆川 明	ミナ ペルホネン デザイナー
ヤノベ ケンジ	現代美術作家, 京都造形芸術大学教授
吉本 光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事